



The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



No.23
1999年10月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎03-3601-2535 FAX03-3601-2988

国家資格制度と専門学校

日本自動車整備専門学校校長
 全国自動車整備専門学校協会副会長

椎野 武

わが国は、職業技術分野ごとに、それぞれの資格が成り立っており、ドイツの職業専門教育や、その制度と並び、世界に誇るべき素晴らしい制度を持っていると思う。

自由の国・アメリカの貧富の差、上層・下層の軋轢の拡大を見るにつけ、個人が数少ないチャンスをもものにしなければならない厳しい社会というものは、社会不安を抱えざるを得ないと思う。

私たちは、国家資格制度があることが社会の安定を保つことや、若い人に対する明確な目標、あるいは学習指針を提供していることを深く認識すべきであろう。これにより、社会は安心して資格保有者を受け入れられるのであり、安定した成長を遂げることができるのだから。

有為な人材を輩出

今日まで国家資格制度の中で、私たち専門学校は有為な人材を輩出してきた。2級合格者数で言えば、その8割超（昨年度第2回認定試験がソリンおよびシャシ合計17107/21188人）が整備専門学校卒業生である。

学校で資格が取れるからこそ、多くの若者が整備士を希望するのであ



り、実務経験を積み重ねないと取れない資格であったなら、社会が必要とする整備技術者が確保できたか疑問に思う。専門学校と資格制度を連携させた有効性を示すものであると同時に、改めて社会的責任を痛感している。

大学出て専門学校へ

さて現在の日本の教育制度について、巷間、初等教育や高等教育での問題が指摘されている。かつて「大学卒」は、国家資格として社会的に認知されていた。

それが大学の大衆化に伴い、大学卒そのものが社会に必要とする高等な能力・知識を持った資格と言えなくなってきたことが要因のひとつなのではないか。大学卒で専門学校に進む学生が増加しているのは、その表れではないかと思う。

時宜を得た1級整備士

運輸省で検討されている1級自動車整備士資格は、まさに時宜を得ている。社会システムは交通体系、環境、資源エネルギー等々について変革を余儀なくされている。こうした中で、自動車における高度な知識・技術を持ち、公に信頼され、認定されたエンジニアの存在は必要不可欠となる。

これからは、大学も対等な競争相手として捉えつつ、国家・社会・時代が求める人材の育成に向け、若い人にとって魅力のあるダイナミックな教育改革を続けて行くことが専門学校存続のキーになるのだと思う。

当協会は、1級自動車整備士の実現と魅力ある教育改革に向け、今後も努力して参りますので、会員各校の皆様にはご協力をたまわりたく、よろしく願いいたします。

CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 特集・教材アンケート
- 6面 トピックス・先生方の声
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教授法・編集後記